

<p>確かな学力</p>	<p>○ 1の「内容がよくわかって学習している」については、児童がよくあてはまる・あてはまると答えている。6月に比べ11月はよくわかるという児童が減少している。今後も、日々の授業力の向上を図り、さらに児童にとってわかりやすい授業を展開していく。6月に2名、11月に3名の児童があまりあてはまらないとしており、個に応じた指導を充実させ、担任だけでなく全校体制での支援を、計画的に実施していく。</p> <p>○ 2の「家庭学習を進んで行っているか」については、児童の評価が11月に伸びている。一方、保護者は進んで行っていると答えた割合が児童と比べて低くなっている。本校児童は概ね家庭学習の習慣は身に付いていると思われる。臨時休校中も家庭でしっかりと学習できた力が継続していることが考えられる。さらに家庭学習の目的や自主学習の内容等について個に応じた指導することで積極的に取り組めるように努力していく。「家庭学習スタンダード」リーフレットの活用や家庭との連絡ファイルの活用をとおして家庭と協力して進めていく。</p> <p>3の「ふるさとへの興味」については、児童はふるさとに興味をもち、進んで調べようとするこどが、6月よりも11月で評価が下がった。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため例年よりも五箇地区の外への見学が減少し、五箇祭りでの米や大根の販売することがなかったが、五箇地区内での見学は、保護者・五箇地域の方々の協力のもと進めることができた。協力してくださる方々への感謝の気持ちを忘れることなく、さらに児童のふるさとを愛する気持ちを育て、進んで調べる力を伸ばしていく。</p> <p>○ 4の「読書や新聞」については、児童は6月も11月も関心が高い状況である。今年度は、感染拡大防止のため保護者による読み聞かせの実施を見送った。学校では、読書タイムの時間を設定したり、学校司書やサポートティーチャーの方に読み聞かせをしていただいたりして、本に親しむ活動を取り入れている。5・6年生は、毎月1回「新聞トーク」を実施し、新聞に親しむように取り組んでいる。水曜日ノーメディアデーを設定し、家族ぐるみでの読書を働きかけてきた。学校司書や読書のサポートティーチャーをより活用し、読書活動を広げていくとともに、学年ごとに選んだ50冊の良書に親しませていく。</p>
<p>豊かな心</p>	<p>○ 5の「あいさつ」については、元気にあいさつできるようにすることを目標に児童会でも取り組んできた。毎日あいさつについて振り返り「あいさつシール」を食堂前に掲示し児童の意識は高まっている。保護者による評価は児童と差があり、もっと伸ばしたいという保護者が多いといえる。朝や帰りの校長室・職員室へのあいさつのような決まった場面では元気にできている。児童と接する見守り隊の方へのあいさつについて実践できるよう、班長会議などで指導を続けていく。</p> <p>○ 6の「思いやり」については、児童の評価が高い。今年度はコロナに関しての偏見がないようすることを多くの場で指導してきた。思いやりある児童・学校という本校のよさを大切に、家庭・地域と連携し、「いじめは絶対に許さない」姿勢を示し、「自分がされていやなことはしない」「自分が言われていやなことは言わない」等の指導を徹底し、77名の児童全員が楽しく安心して学校生活を送ることができるようにしていく。</p> <p>○ 7の「学校図書館や市立図書館の活用」については、児童は全体的には関心が高いといえる。保護者は児童にさらに読書に関心をもたせたいという思いが強いといえる。今年度はうぐいす号の来校が感染予防のため中止になったが、学校司書・サポートティーチャーと連携し、図書館をさらに活用できるよう、児童へ利用の呼びかけを充実させている。</p> <p>○ 8の「みんなと力を合わせるこど、気づき・考え・行動すること」については、児童の評価が高い。今年度、気づき・考え・行動することについて繰り返し指導してきた成果といえる。保護者の評価は「みんなで協力する」についてであり、上がっている。運動会など皆で協力する経験などが評価が上がった要因の一つと考えられる。今後も、気づき・考え・行動することについて、重点的に取り組んでいく。</p>
<p>健やかな体</p>	<p>○ 9の「運動」に関しては、児童は全体的によいとしている。保護者からの評価では、より多く運動してほしいという気持ちが高いといえる。朝や業間等、児童がマラソンやなわとび、鬼ごっこやサッカーに取り組む姿は見られる。運動身体づくりプログラムを確実に実施し、「動ける体」「動きたい体」を育てるよう指導を充実させる。</p> <p>○ 10の「感染症予防」については、児童による評価は高いといえる。保護者による評価は6月と11月で大きな変化はない。今後も、感染症予防について、油断することのないよう、継続的に取り組んでいく。</p> <p>○ 11の「生活習慣」、12の「むし歯予防、衛生習慣」については、6月に比べ11月は、児童による評価が少し下がっている。今年度は外部からの講師を招聘しての授業を昨年度よりも積極的に取り入れ、各種アンケートの実施や予防についての指導を行った。むし歯の治療については、徐々に改善されている。コロナ対策について油断することなく取り組むことも、早寝・早起き・朝ご飯・朝うんちを中心に、家庭との協力を図っていく。</p>
<p>開かれた学校</p>	<p>○ 13の「書写指導やNIE」について、児童による評価が11月に下がっている。今年度は、福島県のたなばた展がなく、大きな目標がなかったことも影響しているものと思われる。「NIE (Newspaper In Education = 教育に新聞を)」を推進している。</p> <p>○ 14の「ノーメディア」については、児童・保護者ともに両極化が見られる。「ゲーム・テレビ・パソコン」等について家でのルールや約束事を守るよう呼びかけ、標語コンクールを開催し継続して取り組んでいる。標語ののぼり旗は、幼・小・中に各2本配置していく。</p> <p>○ 15の「学校の教育方針や様子をわかりやすく伝えること」については、保護者の評価が全体的に高い。授業を保護者が参観できないことが多いため、学校便りやホームページなど学校の様子を伝えてきた。今後も引き続き努力していく。</p>